

「神様奇跡を下さい」と私達職員はいつも願っております。(祈っています) また先日、春先におじちゃんが植えたスイカの収穫を致しました。おじちゃんが大好きだったスイカ(黄と赤) おやつの時間みんなでもいただきました。おいしかったです、おじちゃん!! 今まではあたり前の様にやってもらっていた草刈りや細かい大工仕事・先日は畑の草刈りを職員でやりました。大変な仕事を今まで一生懸命やって下さったおじちゃん!! ありがとうございます。行事の前には一番早くアーチをたてたりテントをはったりと…思い出はいっぱい…子ども達にも私達職員にも思い出を沢山残してくれました。

優しい心をありがとう おじちゃん。おじちゃんは平成23年7月30日午前0時4分急逝致しました。沢山の思い出をありがとう おじちゃん。これからは天国で見守っていて下さい!!

四分一 智子

主は与え、主は奪り給う

(三鷹小羊・23年8月の園だよりより)

行田小羊の職員として15年半、終始、縁の下の力持ちとして蔭の人を通して抜いた愛称「おじちゃん」が7月30日、天国へと旅立ちました。早朝から超遅まで子どもを守り、職員の心の支えとして園を守ってくれて本当に有難う。

「おじちゃん」は、私にとつては実の親子のような関係、運命を背負った弟でした。私は、赤ん坊の頃の彼の母親代わり。そして弟は最後には小羊のため、市川II保育園を助けるために、不思議な導きで行田小羊の管理人となり、私の背負いきれないものを背負ってくれました。男手のない園舎を守り、職員研修の場である神奈川県三浦市の『にじのはしの家』を守り、早・遅番で職員が手薄な時は大きな力となり、「花が大好き」を生かして、私の夢であった『花に囲まれた保育園』を見事実現してくれました。にも関わらず弟は、恩人II小羊に「自分は何をしただろう?」とずっと問い続けていたのです。その一途の15年でした。

最後まで小羊を思い、最期の日に二人で話した事…「園の為に人の何倍も働いてくれて有難う」「家長として4人の子どもを育て、社会人として世に送り出し、最高の父親で偉かったよ」「新しい命に生きるんだよね」「父や母や、姉、兄二人にも会って一緒に神さまのそばでゆくりしようね」…弟はパツチリと目を開いて、耳元の会話を楽しんでいました。

「形式(この世の事)は息子たちの気の済むように任せようね」「クリスチヤンとして先に救われた者は主と共に心は自由、ハレルヤだよ」「主の御名によつて感謝だよ」「すべて主にゆだねて感謝しようね」…こんな会話がしつかり二人で出来てよかったね。主はあなたの純粋な、幼な子のような素直な心が一番好きだったと思うよ。この15年間みんなに愛され、みんなを愛した弟は最高の幸せ者でした。みんなの心に平安があるように。

また会う日まで。チョットだけ先だったね。ありがとう、ありがとう。